

# 嫁接法の種類

大 岩 金

## 一、切接法

此の方法は我が國では昔から廣く用ひられてゐる方法でありまして其の方法は先づ砧木を掘りあげて根を整理致します。即ち根を長短のない様に七、八糶の長さに切斷し、所謂砧木は五、六糶位に切り其の切口は利刀で平滑にしておくのであります。そして接穂即ち求める種類の木は、——二芽が省いてゐる程度にして切り頂芽のある側の皮を脱ぎ砧木はその穂をして密着させる様に平滑な部分の皮をそぎ取るのであります。要するに活着させるには砧木と穂との形成層を密着させる様にする事でありませす。それで密着させてラフイヤ又は打藁等を用ひまして縛るのであります。それで普通揚接するのに用ひられる砧木の大いさは直径一——二糶のものが好都合でありましてそれよ

り大きくなりませすと穂を二——三本も接ぐことがあります。尙更に大なるものでありますとこの仕方では結果が面白くありません爲根部から六十——九十糶も上の所で裁斷して接木する事もありませす。

又接穂は一年生のものに限られて俗に土用芽といふ部分は切捨て、その下の部即ち中央部を使用するのであります。

接木の終つたものは豫て用意してゐいた苗床に植付けるのであります。それには先づ堆肥の様なものを充分敷き込み土壤を膨軟にし畔幅六十糶位とし深さは二十糶餘の溝を掘りまして穂は見えない程度に埋めるのであります。

右の様な方法は砧木を掘りあげて接木するので揚接と稱します。此に反して植付けられたまゝで

接木するのを居接と申します。揚接を行ふ種類は主に梨、桃、苹果、枇杷、梅、柿、葡萄等何れの果實にも行ふ事が出来ませんがその中、柑橘、柿、桃、栗、葡萄は何分活着し難いものでありますから居接の方を用ひるのが安全であるとされて居ります。

尙居接にも覆土は必要であります。特に前者の覆土は降雨の爲などに崩れた時は再び覆土するやうにせねばなりません。その他に見廻はつて砧木の萌芽等は丁寧に除去せねばなりません。穂の芽が伸びて來ましたならば支柱を立て、保護してやるのであります。それで好成育をする時は種類によりましては一年内に一米以上も成長するもののであります。尙穂の芽が十四、五糎及三十糎位に成長した時に好く腐熱した人糞を各一回宛施し夏期に一——二回も同様の肥料を施しますと良成績を得られるのであります。

それで揚接と居接の得失でありますが揚接は居接に比して仕事容易で能立が上りますけれども活着割合は居接の方が好成績であります。

## 二、割接法

この方法は高所で接木する時とか砧木が大きい時等に應用されるものであります。特に葡萄は小さくても主にこの方法が用ひられて居ります。

先づ割鉋を用ひて砧木を割つてその割口へ穂を挿入するのであります。で砧木を割りましたならばその割口は滑になる様利刀で削るのであります。穂はその割口に合ふ様楔形に滑に削るのであります。穂は同大ならば兩方の形成層を密接させますがよいのであります。穂が小さい時は砧の一方で密接させ一つの割口へ二本の穂を挿入する事も出来る譯であります。又十字に割りますと四本の穂を挿入する事が出来るのであります。

で挿入しましたならば縛つて尙雨水を防ぐ爲に雨除を造ります。と同時に鳥等の止ることに依つての被害をさける爲に豫め竹等で止木を造つておくのも一策であります。

尙大木に行ふ場合は相當高所で行ふ事と共に一時に施行せず先づ三分の一又其残りの三分の一といふ風にして一部づゝ接木して行くのであります。